

FreshRoute診断

産地物流・鮮度保持カルテ

産地の物流を、「勘」から「数字と証拠」へ。

1枚のカルテで、輸送・鮮度・補助事業までを一度に診断する。

※ 本カルテは実案件データ（匿名化済み）に基づく診断サンプルです。
対象：産地／生産者団体／物流事業者／自治体



南西諸島A島 ― 花きが本土市場へ渡るまで

南西諸島A島では、テッポウユリ・グラジオラス・キク・ソリダゴ・トルコキキョウ・オリエンタル系ユリなどの切花が、本土経由ルートで首都圏をはじめとする消費地市場へ日々送り出されている。

- ― 生産量の低下と天候状況の変化により、定期輸送に必要な物量の確保が年々難しくなっている
- ― 結果として輸送コストは相対的に増加し、販売利益率の低下・販路開発の停滞という構造課題を生んでいる
- ― 天候不順による欠便リスクが常につきまとい、積載効率も安定しない

約5日

産地での
鮮度保持期間（現状）

テッポウユリ

グラジオラス

キク

ソリダゴ

トルコキキョウ

オリエンタル系ユリ



切花の梱包・出荷作業（写真はイメージです）

EXECUTIVE SUMMARY

この診断サンプルが示すこと

A島花き農協が年間104,185バンドを運ぶ南西諸島A島・花きの物流現場を、積載効率+5.1%／鮮度保持約5日からの延伸検証／電気コストの（R7.10）見積比較まで数値化し、農林水産省の認定計画にまで結実させた実例です。

104,185バンド

年間輸送量（A島花き農協・R6.3～R7.2実績・本土経由ルート）

+5.1%

積載効率改善（輸送1回665→699バンド・R10目標年度）

約5日

産地での鮮度保持期間（延伸幅を検証）

※ 参考：鮮温コンテナ実証区の電気使用料 28,350円／対照区（通常冷蔵コンテナ）60,690円（いずれも21日間・R7.10見積）

掲載数値はすべて実測・見積の確定値。推測値を用いる場合は必ず「試算」と明記し、前提を添えます。

現場の記録を、7ブロックのカルテ1冊に変える

現場写真・温度記録・運賃表・出荷実績・既存Excel/PDFをお預かりすると、下記7ブロックのカルテ1冊に仕上がります。設備投資の判断も、取引先との交渉も、勘ではなく「数字」で進められる状態にすることが目的です。

INPUT | お預かりするもの

- 1 現場写真
- 2 温度記録
- 3 運賃表
- 4 出荷実績
- 5 既存Excel/PDF



OUTPUT | カルテ 7ブロック

01 物流フロー図

集出荷団体→港／空港→本土市場

02 課題の定量整理

鮮度低下・廃棄・待機時間・積載率

03 改善案と概算効果

施策ごとの概算インパクト

04 鮮度保持技術の導入候補

DENBA鮮温コンテナ等の比較

05 実証実験計画

検証項目とスケジュール

06 補助事業転用パッケージ

課題整理・証拠一覧

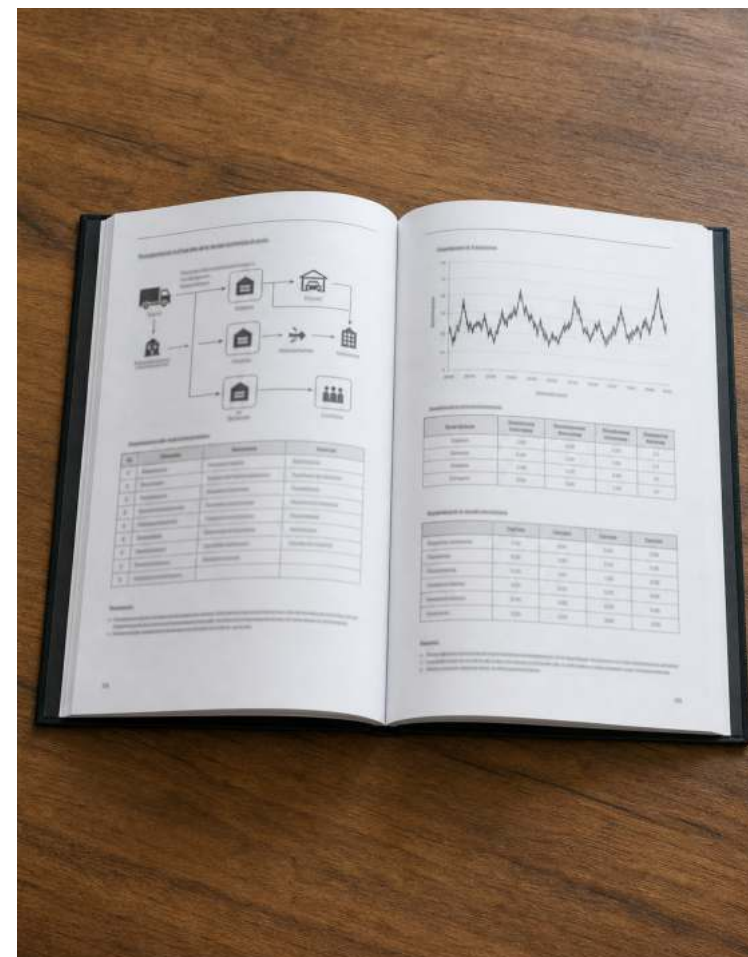
07 実行タスク・役割表

関係者別の役割分担（RACI風）

STEP1

物流簡易診断には温度ロガーの貸出を含みます。温度の実測データが手元になくても、診断はここから始められます。

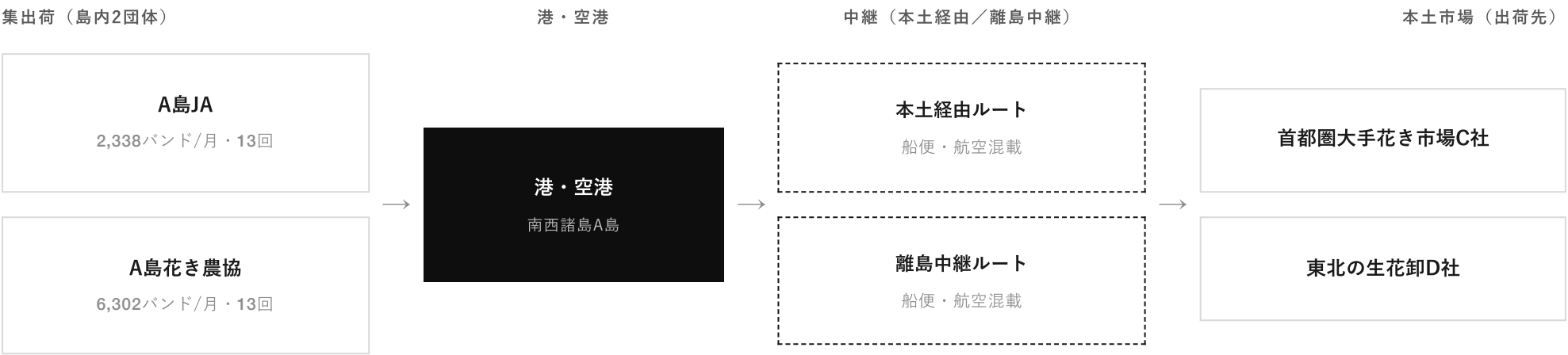
→ 次ページ以降（P5～P11）で、この7ブロックを1つずつ開示します。



※ イメージ：診断カルテ現物の体裁

現在の物流フロー ① — 島内2団体から本土市場へ

A島JAとA島花き農協の切花は、港・空港から本土経由ルート／離島中継ルートで首都圏大手花き市場C社・東北の生花卸D社へ流れる。船便・航空混載・欠便リスクは、常に物流の上流に存在する。



RISK 船便・航空混載は積載枠が限られ、天候不順による欠便が生じると本土経由ルート・離島中継ルートとも輸送が丸ごと止まる。欠便リスクは常に上流（港・空港～中継）に存在し、物量確保と鮮度保持の双方に影響する。

集出荷団体	月間バンド数	出荷回数	平均バンド数（回あたり）
A島JA	2,338 バンド/月	13 回	180 バンド/回
A島花き農協	6,302 バンド/月	13 回	485 バンド/回

※ 上表は2025年1月期実績。品目：テッポウユリ・グラジオラス・キク・ソリダゴ・トルコキキョウ・オリエンタル系ユリ / A島花き農協の年間輸送量は104,185バンド・年間出荷日数182日（R6.3～R7.2実績、本土経由ルート）

課題を数字で切り分ける ② — 物量・鮮度・欠便・積載

生産量の低下と天候状況の変化により、遠方消費地への定期輸送の物量確保が難しくなっている。産地での鮮度保持期間は現状約5日にとどまり、天候不順による欠便リスクと積載効率の低下が、輸送コストの相対的増加と販売利益率の低下を招いている。1回あたり平均665バンドの積載には、まだ伸びしろがある。

665バンド/回

現状積載（平均）— A島JA 180 + A島花き農協 485

182日

年間出荷日数（R6.3～R7.2実績）

約5日

産地での鮮度保持期間（現状）

※ 出典：A島花き農協 年間輸送実績（R6.3～R7.2）／2025年1月期 出荷実績（A島JA・A島花き農協）

課題	内容
物量確保	生産量の低下と天候状況の変化により、遠方消費地への定期輸送の物量確保が困難になっている
鮮度保持	産地での鮮度保持期間は現状約5日。延伸できる余地の検証は次ブロック以降の実証計画で扱う
欠便リスク	天候不順により船便・航空便の欠便が発生し、輸送計画の安定性を損なっている
積載効率	1回あたり平均665バンド（JA180 + 花き農協485）。積載効率には伸びしろがある（改善試算は次頁）

改善案と概算効果 ③ — 積載を699バンド級へ、鮮度は低温域へ

認定計画の目標は輸送1回あたり積載665→699バンド（+5.1%）・島全体の切花出荷日量+5%。鮮温コンテナの電気使用料は21日間28,350円と対照区60,690円の約53%減に収まった。

699

バンド

積載目標（1回あたり平均・R10）
現状665 → 目標699（+5.1%）

+5%

島全体 切花出荷日量（目標・R10）

53

%減

鮮温コンテナ電気使用料
（21日間・対照区比）

内訳（1回あたり平均・バンド）

区分	現状（R6実績）	目標（R10）
A島JA	180	189
A島花き農協	485	510
合計	665	699（+5.1%）

鮮温コンテナ 電気使用料比較（21日間・R7.10見積）

区分	電気使用料
鮮温コンテナ実証区	28,350円
対照区（通常冷蔵コンテナリース+電気）	60,690円
差	約53%減

※ 積載数・出荷日量は食料システム法に基づく流通合理化事業活動計画（2026年1月認定）のKPI目標値。電気使用料はR7.10見積・21日間の比較値。金額換算はこの見積比較から導ける範囲に限定した。

NEXT

予備実証（2℃設定・21日間・グラジオラス／テッポウユリ）ではDENBA有無による切花品質の明らかな差は見られなかった。残課題は「1℃・0℃のより低温域での品質確認」——次ページ④鮮度保持技術の比較で検証条件を整理する。

鮮度保持技術の導入候補 ④ 条件で選ぶための比較表

DENBA鮮温コンテナと通常の冷蔵コンテナ（リース＋電気）を、電気コスト・温度帯・適用条件・実証実績の4軸で横並びに比較する。技術ありきではなく、条件に合うものを選ぶための一覧である。

比較軸	DENBA鮮温コンテナ	通常冷蔵コンテナ（リース＋電気）
21日間 電気使用料	28,350円 実証区・R7.10見積	60,690円 対照区・R7.10見積
温度帯	2℃設定で実証済み。1℃・0℃のより低温域は本実証で検証予定	2℃設定で対照区として同時実証
適用条件	初期リース条件・設置スペース（個別見積）	導入・運用条件は事業者ごとに異なる
実証実績	予備実証（2025年2～3月・21日間・グラジオラス／テッポウユリ）は品質検証（有意差なし・品種間差のみ）。電気使用料はR7.10見積による試算	同一期間・同一条件の対照区。電気使用料はR7.10見積による試算

▲ **53%**

21日間電気使用料の差
（60,690円→28,350円・R7.10見積）

※ 予備実証（2℃設定）では、DENBA有無による切花品質の明らかな差は確認されなかった。差が出たのは品種間（シュガーベイベ桃色＞ノバラックス黄色）。→ 低温域（1℃・0℃）での再検証を前提に、現時点の第一候補として位置づける。

実証実験計画 ⑤ — 有意差なし、も隠さない

予備実証（2025年2～3月・21日間・2℃設定）ではDENBA有無で切花品質の明らかな差は見られなかった。その事実を起点に「1℃・0℃のより低温域」を残課題として再設計し、本実証は産地保管・消費地棚持ち・荷受側の3段でR7.12～R10.3に検証する。

予備実証（2025年2～3月・21日間）

条件	内容
対象品種	グラジオラス／テッポウユリ
比較区	DENBA有り（箱・パケツ）／無し（箱・パケツ）計4区
温度設定	2℃

結果（事実として記録）

「DENBA有無による切花品質の
明らかな差は見られなかった」

※ 品種間差は確認（シュガーベイブ〈桃色〉＞ノバラックス〈黄色〉）

→ 残課題：1℃・0℃のより低温域での品質確認

本実証計画

R7.12.1 ～ R10.3.31

01

産地保管実証

産地での鮮度保持期間（現状 約5日）の延伸幅を検証

02

鮮度維持検証

消費地・首都圏大手花き市場C社での棚持ち・日持ち試験（手数料 108,900円）

03

荷受側検証

東北の生花卸D社での荷受後保管延伸・販売ロス削減日数を定量化

※「有意差なし→条件再設計」も含め、そのまま記録する。それが本カルテの診断姿勢である。

補助事業に転用できる課題と証拠 ⑥

— カルテがそのまま申請根拠になる

診断で整理した課題と数値は、そのまま補助事業の申請根拠になる。本件は食料システム法に基づく流通合理化事業活動計画として、2026年1月に農林水産省の認定を取得した。

証拠一覧 — 本カルテづくりの実体

書類	内容
活動計画	流通合理化事業活動計画（認定書類一式）
課題提案書	物流生産性向上推進事業への課題提案書
経費内訳	実証事業の費目別内訳書
目標値設定	積載数・出荷日量など KPI の設定根拠
見積一覧	コンテナリース・日持ち試験 ほか各種見積
実証写真記録	16頁（別添）※本頁には非掲載

※ 実証写真記録16頁（別添）より。撮影原本は印刷物のため画質が低く、本カルテ本体には直接埋め込んでいない。

HIDAX 実績

認定取得

食料システム法に基づく

流通合理化事業活動計画

認定取得（2026年1月・農林水産省）

物流生産性向上推進事業への課題提案書作成支援

経費規模（実証事業）

費目	金額
コンテナリース代	10,265千円
日持ち試験	659千円
実証委託費	2,750千円

※ 上表は認定計画の事業経費規模（千円単位・3費目）。別途、本診断に用いた個別実証費用一式は約102万円（別スコープ）

実行タスクと関係者別の役割 ⑦ — 着手前に一枚で固定する

産地・市場・荷受・技術・事務局を横断する実証は、誰が何に責任を持つかを着手前に一枚で固定する。関係者の役割を実証タスクごとにRACIで割り付けて動かす。

実証タスク	事務局 (A島花き流通合理化実証協議会)	産地2団体 (A島JA／A島花き農協)	DENBA (鮮度保持技術)	消費地/荷受市場 (C社／D社)	HiDax (診断・実証設計)
産地保管実証 鮮度保持期間 約5日の延伸幅を検証	A	R	C	I	C
鮮度維持検証 消費地C社での棚持ち・日持ち試験	A	I	C	R	C
荷受側検証 D社での荷受後保管延伸・販売ロス削減の定量化	A	I	I	R	C
温度記録 温度ロガー設置・全区間の温度データ取得	I	C	C	C	R A
申請書類作成 活動計画・課題提案書・経費内訳など申請書類一式	A	C	I	I	R

R

 実行責任

A

 説明責任

C

 協業

I

 報告

※ DENBA・HiDaxは実名。他の関係者名称はサンプル化のための置換表記

診断メニューと料金（仮説価格）

現場写真・温度記録・運賃表・出荷実績を1冊のカルテに変える仕組みを、そのまま3ステップの商品として提供する。金額は本サンプル制作時点の仮説価格。

ステップ	内容	料金（税別）
STEP 1 物流簡易診断	現場写真・出荷実績・運賃表をもとにフロー可視化と課題整理。 温度ロガー貸出込み （温度の実測データが無い産地でも、そのまま着手できます）。	11万円 ～ 22万円
STEP 2 改善設計・実証計画	改善案の概算効果、鮮度保持技術の導入候補比較、実証実験計画、補助事業転用パッケージの作成まで一式。	55万円 ～ 150万円
STEP 3 月次モニタリング	出荷実績・温度データを継続チェックし、KPI（積載数・出荷日量など）の推移を定点観測。	月 5万円 ～ 15万円
オプション	鮮度保持設備（DENBA 等）導入支援／補助事業申請支援／共同物流プロジェクト組成	個別見積

※ 上記は仮説価格（すべて税別）。案件規模・診断範囲により変動する。3社限定実証の特別条件は個別にご案内します。

有料実証診断を、3社限定で募集します

現場写真・温度記録・運賃表・出荷実績——この4点を預けていただければ、産地ごとに本サンプルと同じ「産地物流・鮮度保持カルテ」を作成する。まずはSTEP1の物流簡易診断から始められる。

募集要項	内容
対象	産地・生産者団体・物流事業者・自治体
優先条件	現場写真・温度記録・運賃表・出荷実績など「投入物」を持ち寄れること（温度記録が無い場合はSTEP1で温度ロガーを貸出）
進め方	STEP1 物流簡易診断（11万～22万円・税別）から着手し、結果を見てSTEP2以降を判断
3社限定の条件	個別にご案内します（価格優遇・実証費一部負担等を想定）
募集締切	随時受付（3社に達し次第終了）

※ STEP1～3の内容・料金は前ページ「診断メニューと料金」を参照。数字は本カルテ内の確定値のみ使用



花き市場に並ぶ切花（写真はイメージです）

CONTACT

産地物流を、 数字と証拠で。

FreshRoute診断のご相談・実証3社枠のお申し込みは、HiDax合同会社まで承ります。

まずは、手元の出荷実績と運賃表を見せてほしい。診断の入り口は、そこから始まります。

HiDax 合同会社

info@hidax.jp

FreshRoute診断／実証3社限定枠 お問い合わせ窓口

※ 本カルテは実案件データ（匿名化済み）に基づく診断サンプルです。掲載の数値・料金は実案件および試算に基づくものであり、貴社の診断結果を保証するものではありません。